

Beyond the Border, Create the Future.



ANNUAL REPORT

2023-2024



CROSS FIELDS

Message 代表メッセージ

ビジョン実現に向け、 実践を積み重ねる段階に



共同創業者・代表理事

小沼 大地

2023年度はプログラム卒業生の方々向け伴走プログラムの開始や、Co-Create領域での孤独・孤立の対策事業への本格着手など、ビジョンの実現に向けた新たなタイプの活動が一気に形になっていった年でした。

2024年度はここまで構想してきた戦略や事業計画をもとに、各事業の1つ1つのプロジェクトで意義のある実践を積み重ねていく年にしたいと考えています。応援してくださる皆さまとともに、「社会課題が解決され続ける世界」の実現に向けて着実に歩みを進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



CROSS FIELDS

Our Vision 目指す世界

＞ 社会課題が解決され続ける世界

Our Mission 果たすべき使命

- ＞ 社会課題を自分事化する人を増やす
- ＞ 課題の現場に資源をおくり、ともに解決策をつくる

CULTIVATE領域

社会課題を自分事化する人を増やし
社会の土壌をつくる



より広く拡大／拡散
Scale Up/Out

CO-CREATE領域

課題の現場に資源をおくり
解決策をともにつくる

社会課題を自分事化する
人の数を増やしていく
人へのアプローチ

私たちの事業領域とプログラム

課題の現場において
様々なステイクホルダーとともに
解決策を生み出す
課題へのアプローチ



社会の未来を切り拓く
リーダーを育む

EMPOWER領域

より深く突き詰める
Scale Deep

Program Reports

事業報告

クロスフィールズは「社会課題が解決され続ける世界」をビジョンに掲げ、様々な事業を展開しています。

2023年度は

- ①ビジョン実現に向けた各事業の推進と発展
- ②事業運営における攻めと守りの実装
- ③サステナブルに成長できる働き方と組織の実現

の3つを軸に、社会課題を自分事化する人の数を増やしていく「人へのアプローチ」と、

課題の現場において様々なステークホルダーと解決策を生み出す「課題へのアプローチ」の両面で事業を進化させてきました。

続くページからは各事業の概要と2023年度の活動実績をご紹介します。

EMPOWER領域

01

留職プログラム

Corporate Volunteering Program

02

社会課題体感フィールドスタディ

Social Issue Understanding Field Study

CULTIVATE領域

03

共感VRプログラム

Empathy VR Program

CO-CREATE領域

04

孤独・孤立対策事業

Initiatives to Prevent Social Isolation and Loneliness

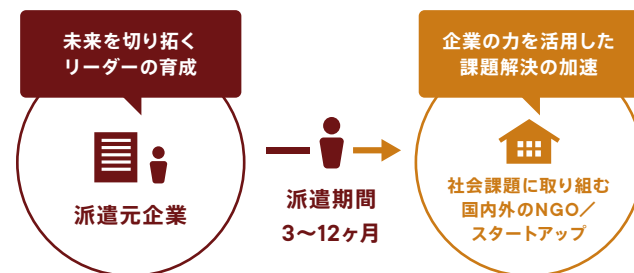
新規イニシアティブ事業

- ＞ グローバルキャリア探究キャンパス「CROSS BRIDGE」
- ＞ ボードマッチプログラム
- ＞ アラムナイ事業
- ＞ インパクトマネジメント



留職プログラム

社会課題に取り組む国内外のスタートアップやNGOに、企業の社員を数ヶ月～1年にわたって派遣し、本業のスキルを活かして課題解決に取り組むプログラム。



2023年度までの活動実績(累計)

👤 派遣人数	279人
🏢 企業数	52社
🏠 パートナー団体数	154団体



事例紹介

新興国派遣

企業

中外製薬

留職先

The Breakfast Revolution



中外製薬社員がインドで子どもの栄養失調問題の解決に取り組むNPOに留職しました。企業での経験を活かし、留職先の中期経営戦略やその実行体制づくりなどに貢献。社会課題の現場と向き合いながら、自身が人生を通じて成し遂げたい信念を見つけていきました。WEB

国内派遣

企業

損保ジャパン

留職先

RICCI EVERYDAY



損保ジャパン社員がウガンダの女性を作るライフスタイル商品を扱うRICCI EVERYDAYに留職しました。全くの未経験業務に奮闘しながら、生産性向上やチームビルディングを通して団体に貢献。同時に自分らしいリーダーシップを確立し、自身のパーパスを磨きあげました。WEB

Interview 事務局インタビュー

企業

NTTドコモ

NTTドコモでは2018年より留職を導入し、これまで7名が参加してきました。同社総務人事部の伊藤さんと衛藤さんは「留職は社会課題の現場に飛び込み、タフアサイメントを通じて国内外の課題解決に携わる経験を積めるため、グローバル人材と越境人材の両方の育成に効果があると感じている」と振り返ります。WEB



Member's voice



留職事業リーダー

瀬上 拓美

昨年からの派遣人数が倍増した留職プログラム。今年は日本を含む5カ国に派遣し、留職者一人ひとりの現地活動を後押しし、数々の現地貢献を生み出すことができました。同時にクロスフィールズのビジョンの実現に向けて伴走のあり方をアップデートするなど、クロスフィールズと留職者がチームとなって走り切った1年でした。これからも留職者との連携を通じて社会課題の解決を牽引できるよう、事業の「深化」と「進化」に取り組んでいきます。



社会課題体感フィールドスタディ

数時間～1週間という短期集中型のリーダー向け越境プログラム。国内外の社会課題の現場や現地リーダーの志から刺激を受け、社会に対する感性とぶれない軸を育んでいきます。

2023年度までの活動実績(累計)

🚩 実施件数	125件
👤 参加人数	2,479人
🏢 実施企業数	72社



事例紹介

企業 サントリー プログラム カンボジア



次世代リーダー研修として、サントリーの社員12名がカンボジアを舞台としたプログラムに参加しました。参加者は教育格差や住居問題などの現地課題に取り組む団体のリーダーとの対話や、農村滞在を行い、五感で社会課題の現場を体感。プログラムを通じて、社会性と経済性を両立した事業運営に向けて自身や自社ができることを考えていきました。

企業 日立製作所 プログラム 宮城県女川町



日立製作所より約30名が宮城県・女川町で1泊2日のプログラムに参加しました。参加者は現地を体感し、復興とまちづくりに取り組む現地リーダーとの対話を通じて「研究者として創りたい世界」「企業研究者としてありたい姿」を見つけていきました。WEB

After Story プログラム後のご活躍

企業 NEC プログラム SIMルワンダ

NECのシニアディレクター吉尾理さんは2019年にルワンダで実施した「Social Innovation Mission」に参加しました。現地でビジネスを通じて社会課題が解決されている様子を目の当たりにし、自身の考え方が大きく変わったという吉尾さん。プログラム後は他の社員にも社会課題の現場に越境する経験を提供されています。WEB



Member's voice



事業副統括マネージャー

田熊 彩子

クロスフィールズのビジョンである「社会課題が解決され続ける世界」の実現に向けて、「参加者一人ひとりの“個”の変化を通じた日本企業の変容」「社会課題の解決に繋がる事業創出の支援」の2つを柱に置き、チームとして一段進化を遂げた1年でした。次の1年も進化したチームで各プログラムを発展させ、ビジョンの実現に向けて国内外のパートナー団体の皆さまと一緒に引き続き力強く歩み続けます。



共感VRプログラム

環境・人権など自社が定めるマテリアリティに即した課題や、普段の仕事では接することが少ない社会課題の現場を360度/VR映像などを通して疑似体験するプログラム。テクノロジーを活用した「共感によるつながり」を通じて、サステナビリティ経営の実現に向けた社員のマインド醸成を目指します。



2023年度までの活動実績(累計)

企業	 導入企業数	15社
	 参加人数	10,000人以上
学校	 導入学校数	17校
	 参加生徒数	1,500人



プログラムメニュー

プログラム	対話型 e-ラーニング	オンライン型 ワークショップ	没入型 ワークショップ
	タブレット/スマホ使用 	タブレット/スマホ使用 	VRゴーグル使用 
	自社のマテリアリティ に応じた社会課題の 自分事化 事業を通じた 課題解決に取り組む マインドの醸成	社会課題に対する 当事者意識の醸成 事業アイデア探索	社会課題に対する 当事者意識の醸成 事業アイデア探索
実績規模（推奨）	1,000名以上 人数制限なし 英語版制作による グローバル展開も可	最大200名 程度	10名程度

事例紹介

東急不動産HDとのコンテンツ開発

対話型e-ラーニングを活用し、東急不動産HDと共同で同社のサステナビリティ人財を育成する「サステナ体感型プログラム」を開発・実施。同社社員より約1,500名が受講しました。参加者からは「同僚とサステナビリティの課題につ



いて対話することで、新たな気づきや視点を得ることができた」などのコメントが届いています。また、24年4月には同社と共催でイベントを開催。サステナビリティ経営推進に向けたコンサルティングを行うクレアン社のCEOや東急不動産HDグループサステナビリティ推進部の方々を迎え「サステナビリティに対する社員の当事者意識を高めるには？」をテーマに実施しました。当日はVRゴーグルを使った体験会やネットワーキングも実施し、30名を超える方々にご参加いただきました。 [WEB](#)

Member's voice



共感VR事業リーダー

藤原 未怜

企業向けプログラムの参加者数が1万人を超え、「社会課題を自分事化する人を増やす」というミッションを体現できる事業に育ってきたと感じています。サーキュラーエコノミーをテーマとしたプログラムを評価いただけたことは大きな自信になりました。さらなるインパクトを生み出すために必要な体制を構築しながら、ビジョンの実現に向けて邁進していきます。



孤独・孤立対策事業

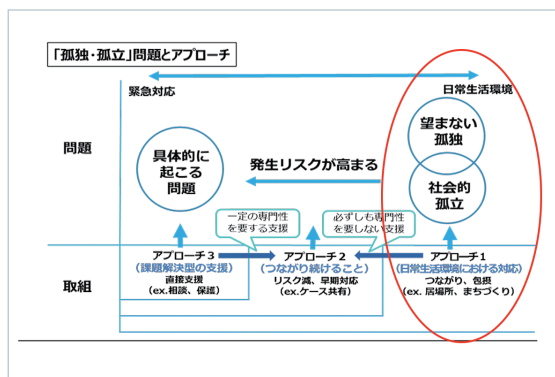
NPO／企業／行政のクロスセクター連携で
孤独・孤立の対策に取り組みます。

「課題の現場に資源をおくり、ともに解決策をつくる」というミッションのもと、Co-Create領域では特定の課題領域に対し、クロスフィールズとして主体的なアクションを行っています。

2022年からは「孤独・孤立の予防」を注力する課題領域として定め、様々なパートナーとの協働を通じた実践・探索・調査の活動を行っています。当団体が培ってきた企業・NPOとのネットワークと組織や立場を越えた信頼と共創関係を築く力を活かして、セクターを超えた連携を生み出し、孤独・孤立の対応に向けた様々な事業を展開しています。



孤独・孤立対策事業について



「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 分科会2 中間整理 「孤独孤立の問題」とアプローチ」の一部を編集

内閣府は日本における孤独・孤立対策の課題を上図のように整理し、重点計画として「人と人との「つながり」を実感できる地域づくり(アプローチ1)」「支援を求める声を上げやすい社会とする(アプローチ2)」「切れ目のない相談支援につなげる(アプローチ3)」を掲げています。そのなかでもクロスフィールズは「人と人とのつながりを実感できる地域づくり」を中心的な領域として定め、孤独・孤立の対策に取り組むNPOや地域の居場所との連携を通じた予防事業等に取り組んでいます。

事例紹介

能登半島地震での孤独・孤立対策



能登半島地震による二次避難者の孤独・孤立の予防に向けた取り組みを実施。金沢市近郊に広域避難している二次避難者家族(こどもや高齢者を含む)の不安軽減を目的に、地域の交流拠点/居場所であるこども食堂につなぎ、食事の提供、運営者や地域住民とのつながりの創出や心のケア、地域情報等の提供を行いました。24年度からは特に孤独・孤立のリスクが深刻な高齢の広域避難者向けの居場所づくりとコミュニティ形成を目的とした事業を実施予定です。

NPOと企業の連携促進

孤独・孤立の対策に取り組むNPOと企業との連携を加速させることでクロスセクター連携を通じた課題解決に取り組んでいます。2023年より認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ(以下、むすびえ)とのパートナーシップを開始し、こども食堂をはじめとした地域の居場所と企業との協働事業の創出に取り組んでいます。



大企業の経営者らによる子ども食堂訪問を企画・運営(写真提供:経済同友会)

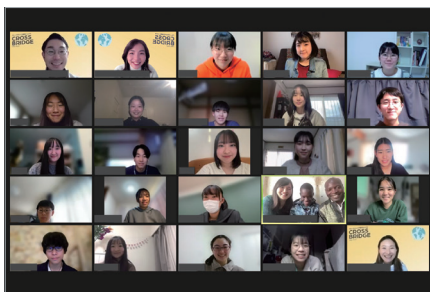
海外視察の実施

アメリカや東アジアなどで孤独・孤立対策に取り組む現場視察を行い、海外の先進的な取り組みから学びを深めたり、キープレイヤーとの対話をしたりし、海外団体との協働の実現に向けた探索も続けていく予定です。WEB



1 グローバルキャリア探究キャンパス “CROSS BRIDGE”

経済産業省 令和5年度「未来の教室」委託事業の一環で高校生向けプログラムを実施しました。全編オンラインで開催し、25都道府県および海外在住の高校生・59名が参加（公開セッションのみの参加者を含む）。約2ヶ月のプログラムではNPOのリーダーとの対話等を行い、グローバルな社会課題への学びを深めると同時に進路の可能性を広げていきました。 **WEB**



Member's voice プロジェクトマネージャー 花井 一太郎

全編オンラインだからこそ、昨年以上に多様な地域の高校生へ探究機会を提供することができました。また昨年のプログラム卒業生がメンターやファシリテーターとして参加してくれ、CROSS BRIDGEが生み出す繋がりやコミュニティの可能性を感じる一年になりました。



2 ボードマッチプログラム

役員レベルの人材交流をビジネス／ソーシャルセクター間で加速させるべく、企業トップによるNPOへの経営参画を加速する「ボードマッチプログラム」を実施しました。本プログラムを通じ、経営トップ8名がソーシャルセクターの団体に半年間にわたり経営参画を行い、うち2名が期間終了後もアドバイザー等の形で正式参画することが決まりました。本事業は2024年度も継続して実施予定です。 **WEB**



Member's voice プロジェクトマネージャー 山崎 怜美

ボードマッチプログラム越境に興味を持ってくださる方が多く、実際にセクターを超えた繋がりを複数つくることができました。この仕組みが更に社会へと広がっていくことを目標に、今年のイベントも盛り上げたいです！





3 アラムナイ事業

クロスフィールズではプログラム参加を通じて「社会に何かしたい」という想を持った卒業生(=アラムナイ)の後押しを行っています。2023年度からは新たに社会課題解決に取り組むアラムナイをコーチングなどの伴走支援と資金提供を通じて支援するアクセレーションプログラム「Sailors Acceleration Program (SAP)」を実施。プログラム参加者7名は7ヶ月にわたり自身の取り組みを加速させていきました。WEB



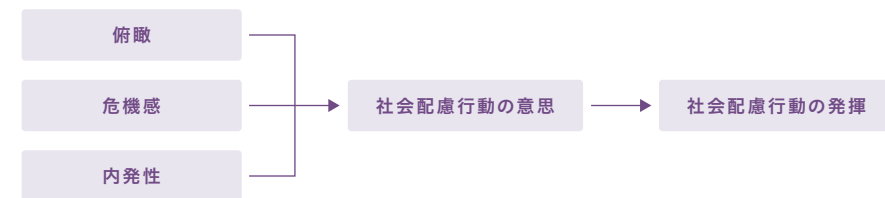
Member's voice 広報チームリーダー 松本 初穂子

SAP参加者7名は、それぞれが自身の関心事や「なんとかしたい」という社会課題の解決に向けた一歩を歩みだし、彼らの姿に私たちもエンパワーされました。これからも様々な施策でアラムナイの後押しを行っています。



4 インパクトマネジメント

2021年度に共感VRプログラムで高校生向けに構築した「社会配慮行動促進の理論モデル」のアンケートを一般モニターを対象に実施。社会人に対しても本モデルが適用できることを確認し、社会課題の自分事化が進むプロセスをアカデミックな観点から実証できました。すでにエンパワー領域のプログラム参加者向けにも同アンケートの実装を始めており、今後のクロスフィールズの事業におけるプログラムの効果検証と改善に役立てていく予定です。(本取り組みはビジネスサーチラボ社の協力のもと実施しています) WEB



Member's voice 留職/IM事業リーダー 鈴木 園子

「社会課題の自分事化を通じた社会配慮行動」のモデルが実証され、プログラムのインパクトを測れるようになったことはクロスフィールズメンバーの自信にも繋がりました。今後はアセスメントの結果を活用してプログラムを改善・進化させ、インパクトの最大化を目指していきます。





Working Environment

HRポリシーの策定

クロスフィールズは「サステナブルに成長できる働き方と組織」の実現に向けて、2023年度にHRポリシーを策定しました。本ポリシーに基づき、各人事施策を実施しています。

Fairness

公平性

多様な個人がフェアに働ける機会の提供

Challenge & Empowerment

成長支援

挑戦し、成長し続けられる機会の提供

Openness & Sincerity

透明性と誠実性

オープンで誠実なコミュニケーション

組織づくりの取り組み

副業制度

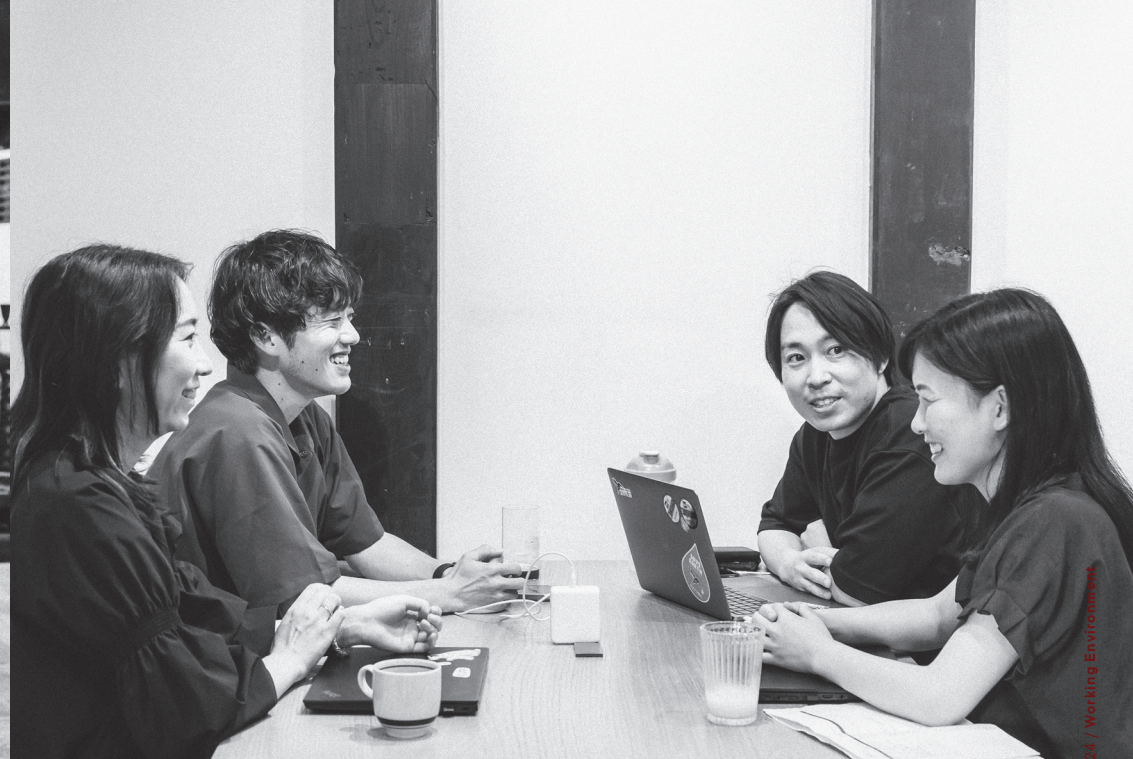


副業制度を活用し、一人ひとりが多彩なフィールドで自己実現する後押しをしています。

育児との両立環境の整備



メンバーには育児世代が多く、育児休暇の取得者が増えています。メンバーそれぞれのライフスタイルを尊重し、働きやすい組織づくりを目指します。



ent

組織の取り組み

TOPIC

組織づくりを担う「プロジェクトC」の立ち上げ

メンバー主体で組織カルチャーをつくるチーム「プロジェクトC」を2023年度に発足。Cには「Connect、Culture、Comfortable」などの意味が込められています。原則リモート勤務においてチームアップやメンバー同士の対面での対話機会を生み出し、メンバーがより生き生きと働ける組織の風土づくりに取り組んでいます。

公募型アサイン制度の導入

メンバーのwillに基づき、公募で業務アサインを行う「ウィルチャレンジ制度」を開始しました。2023年度は3つの案件で公募を行い、各案件にメンバーをアサイン。今後もメンバー自らがチャレンジできる機会の創出を行っていきます。

合宿を実施しました

次年度に向けたチームアップを目的に2日間にわたる合宿を実施しました。初日の鎌倉でのレクリエーションではチームで短編映画を制作をしてチームアップし、2日目のセッションでは次年度に向けて事業横断的な対話を実施しました。非日常の空間でクリエイティブな時間をともに過ごしたクロスフィールズ。メンバー丸となって、次年度も社会への価値を創造していきます。



メディア掲載

WEB WEBマークの付いた記事はこちらから



合計**26**回掲載

新聞、雑誌、WEBメディア 読売新聞、Forbes、BUSINESS INSIDERなど



Forbes
2024年2月号に掲載



企業と人材
12回の連載を掲載



朝日新聞 GLOBE+
代表 小沼のインタビュー掲載

その他のウェブ掲載

2023年6月21日	BUSINESS INSIDER	アクサ生命、ポーラ、デロイト…経営トップが「NPOに経営参画」へ集結。「ボード越境イニシアティブ」とは何か	WEB
2023年6月28日	みんなの教育技術	360度映像で様々な社会課題を疑似体験する「共感VR」	WEB
2023年9月4日	well-living lab	パーパスをはぐくむのは「原体験」。未来人材へ体験を提供する挑戦	WEB
2023年11月6日	PHP研究所「voice」	PTAや町内会…管理職の成長にもつながる“居心地の悪い場所”に行く経験	WEB
2024年3月	ダイヤモンド・オンライン	【対談・小沼大地×佐宗邦威】理念経営の実践者たち#29-31	WEB

講演・イベント

合計**15**回登壇

経済同友会・マルチセクターダイアログ登壇

24年4月9日に開催された「共助資本主義第2回マルチセクター・ダイアログ」に、代表・小沼が登壇しました。経済同友会・新公益連盟・インパクトスタートアップ協会に所属する350名の経営者が集まった対話型イベントの企画設計をリードし、当日はブレイクアウトセッション全体の進行を務めました。



「Social Impact Day 2024」に登壇

社会的インパクトに関する年次カンファレンス「Social Impact Day 2024」に代表・小沼が登壇しました。「コレクティブインパクトで目指す新たな資本主義『共助資本主義』の実現」のセッションにて、共助資本主義の実現委員会 高島委員長、インパクト・スタートアップ協会の米良代表と本テーマについて語りました。



主催セミナー・イベント

採用イベント

2024年1月22日に「NPOセクターで築くキャリア」をテーマとしたオンラインイベントを開催しました。ゲストにコンコードエグゼクティブグループ代表取締役CEOの渡辺氏を迎え、80名以上にお申し込みいただきました。 **WEB**



CEG開催

2023年8月26日にイベントCross fields Empowerment Gathering (通称「CEG／セグ」)を東京で開催しました。本イベントは留職や社会課題体感フィールドスタディ/ワークショップなどのプログラム卒業生やパートナー企業/団体の方々を招いて実施。当日は50名以上が集まり、「社会課題の現場での原体験」という共通点を持つ者同士、セクターの枠を超えてつながり刺激し合いました。 **WEB**



各種セミナー開催

企業の人事部担当者向け勉強会やメディア関係者向けラウンドテーブルを定期的に開催し、社会課題の現場と企業をつなぐ活動を通じて見える社会変化等についてお伝えしています。

Message from Cross Fields Members

クロスフィールズメンバーからの「来年度に向けた一言」をご紹介します。

自分の解体と再構築



プロジェクトマネージャー
今井 櫻子

繋ぐ



プロジェクトマネージャー
岡崎 明子

ほかりしれない教え



シニアプロジェクトマネージャー(業務委託)
沖 依子

革新



経営管理マネージャー
落合 伸子

感性を大切に



プロジェクトマネージャー
神原 由香里

自分らしく
ありのまま



プロジェクトマネージャー(業務委託)
久保 彬子

この一瞬を大切に



シニアプロジェクトマネージャー(業務委託)
久米澤 咲季

探索と実践!



代表理事
小沼 大地

根を育てる



プロジェクトマネージャー
柴谷 直美

インパクトフル!



留職 / IM事業リーダー
鈴木 園子

跳ぶ



事業副統括マネージャー
田熊 彩子

チャレンジを楽しむ!



プロジェクトマネージャー
田中 亜季実

ワクワクを大切に!



プロジェクトマネージャー
中村 翠

一歩ずつ、
プロセスを大事に。



Co-Create事業推進マネージャー
西川 紗祐未

育む



ディレクター
西川 理菜

昇竜



プロジェクトマネージャー
花井 一太郎

気負わず歩んでいく



事業統括マネージャー
原科 佑哉

健やかに



ディレクター
原田 悠子

四駆自動車



共感VR事業リーダー
藤原 未怜

結果を出す



留職 / Co-Create事業リーダー
淵上 拓美

遊!!



事業統括マネージャー
法幸 勇一

愉しむ



インターン
穂積 日向子

蒼く



広報チームリーダー
松本 初穂子

好奇心を忘れず



プロジェクトマネージャー
山崎 怜美

しなやかに



プロジェクトマネージャー
渡辺 真恵

2023年度収支報告 (2023.6-2024.5)

(単位:円)

科目		2023年度実績	
収入	事業収入	留職事業、フィールドスタディ等	252,242,629
	受取会費	正会員受取費・賛助会員費等	1,342,000
	受取寄付金	受取寄付金	11,503,000
	受取助成金	受取公庫助成金等・受取民間助成金	5,552,045
	その他収入		149,638
	当期収入合計		270,789,312
支出	事業費	人件費	150,561,640
		その他経費	76,831,436
	管理費	人件費	392,288
		その他経費	13,004,183
	当期支出合計		240,789,547
収支	法人税		70,000
	当期経常増減額		29,999,765
	当期正味財産増減額		29,929,765
	前期繰越正味財産額		109,334,625
	次期繰越正味財産額		139,264,390

2023年度は、コロナ禍での海外渡航抑制が本格的に緩和されたこともあり、特に留職の新興国派遣が前年度に対して大きく伸びました。また、2022年度より本格的に事業を開始したCo-Create領域とCultiavte領域とで事業が大きく飛躍し、結果として組織全体としての事業規模は前年度比で6%の増加となりました。また、2023年度はクロスフィールズの活動に賛同してくださる個人・法人の寄付者が増え、寄付金額は前年度比で4.4倍となりました。今後もクロスフィールズのビジョンに共感くださるパートナーの方々と積極的に協働しながら事業を推進していく所存です。

人材の採用や組織基盤の強化等に一定の投資を行いました。支出全体としては前年度と同等程度の規模となりました。なお、その他経費の主な項目は、旅費交通費ならびにパートナー団体への支払い報酬料となっています。

2023年度の当期経常増減額は約3千万円の増額となり、健全な財務体制が維持できていると考えています。「社会課題が解決され続ける世界」に向け、より困難な課題に取り組む新規イニシアティブに積極的に取り組むとともに、中長期視点での人材採用・育成に投資していく所存です。

注1) 事業費は、主に人件費、支払報酬料、旅費交通費など 注2) 管理費は、主に支払報酬料、地代家賃、支払手数料など

編集後記

最後までご覧いただき、ありがとうございました。
今年も様々な事業がアップデートしたことを実感しつつ
次年度はどのような変化に富んだ1年が待っているのか、
とワクワクしながら年次報告書を作成しました。
日々事業を継続し、進化できていることは
ひとえにご一緒しているパートナーのみなさまのおかげです。
今年も無事に年次報告書を作成できたことに感謝しつつ、
来年度はどんな旅路を歩み、どのようなご報告を
皆様にお届けできるか、今から楽しみです。

クロスフィールズ広報チーム一同

**Beyond the Border,
Create the Future.**



特定非営利活動法人クロスフィールズ

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F

TEL: 03-6417-4804 E-MAIL: info@crossfields.jp



クロスフィールズ

検索

<https://crossfields.jp>



年次報告書に掲載の記事や詳細は
こちらからWEBでご覧いただけます。

